

別記様式（第3条関係）

開催記録

名 称	第1回会津美里町障がい福祉計画等策定委員会
開催日時	令和5年 6月 1日 15時 00分から 17時 00分まで
開催場所	会津美里町役場本庁舎 203・204会議室
出席者	委員及び事務局：別紙名簿のとおり 委託業者2名
議 題	(1) 計画策定の概要 (2) 計画策定スケジュール (3) 第3期障がい者基本計画実施状況と障がい福祉の現況 (4) アンケート調査（案）について
資料の名称	資料1 計画策定の概要について 資料2 第3期障がい者基本計画・第6期障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画 資料3 策定スケジュール（案） 資料4 令和4年度第3次障がい者基本計画実施状況 資料5 障がい者の現状と障がい福祉サービスの利用状況 資料6 アンケート調査（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>—委嘱状交付—</p> <p style="text-align: center;">代表 長嶺 重信 様</p> <p>1 開会 （星健康ふくし課長補佐）</p> <p>2 町長挨拶 — 省略 —</p> <p>3 委員長及び副委員長の選任</p> <p style="text-align: center;">委員長 齋藤 研一 様</p> <p style="text-align: center;">副委員長 小野 泰弘 様</p> <p>4 協議</p> <p>議 長：「（1）計画策定の概要」について</p>	

事務局：資料1・2により説明

策定の根拠及び位置づけを説明

委員長：質問はございませんか。

(質問なし)

議長：「(2) 計画策定スケジュール」について

事務局：資料3により説明

スケジュール(案)について説明

委員長：質問はございませんか。

町民アンケートやこの会議のほかに、障がい者地域自立支援協議会でも意見があ
がっているため、その意見も取り入れるのはどうか。

事務局：協議会にも、意見を伺いたいと思います。

委員：アンケート結果の内容を検討する時間が少ないのでは。

事務局：アンケート結果や計画の方針は、会議資料を事前に送付することにより事前に各
団体に検討していただければと考えています。

委員長：民生委員の皆様の意見をこの会議に持ち寄るのは可能か。

委員：事前に資料が配布されれば、この会議に報告することは可能です。

委員長：そのような形で意見の集約をお願いしたい。

教育の場の意見や課題をまとめることは可能か。

副委員長：教育現場での課題を持ち寄りたいと思います。

委員長：「(3) 第3期障がい者基本計画実施状況と障がい福祉の現況」について

事務局：資料3・4により説明

委員長：質問はございませんか

委員：利用状況について。グループホームは増える見込みとあるが、最近は落ち着いて
きている。利用者との事業所のニーズの違いもあるのではないか。

委員長：グループホームは地域性や種別等も見ながら今後検討していければと思う。

委員長：児童発達支援についてはどうか。

委員：児童発達支援が増えているのは、サービスにつないだことで増えたのか。町内に
児童発達支援の事業所がないのは課題だ。

委員長：資料にある数は会津美里町の利用者数であり、会津美里町の事業所数を増やすと
いう事は難しいだろう。児童発達支援の増加については、町でどのように分析し
ているのか。

事務局：児童発達支援の問い合わせがあった時に、現実として会津若松市の事業所を紹介
せざるを得ない状況にあります。

委員長：児童発達支援を利用したいという相談はきているか。

委員：児童発達支援を利用したい人は増えているが、事業所の職員数が少なく、難しいとの返答もある。支援員の充実や子どもへの支援が必要では。

委員長：事業所だけでなく専門員の充実も必要。相談支援の利用状況はどうか。

委員：子どもが小さい頃は相談できる場が少なく、相談員がいると保護者の負担が大きく減るので、手厚くしてほしい。

事務局：今後、設置予定の基幹相談支援センターが中心となり、相談支援については充実させていくことを計画に盛り込んでいきたい。

委員：生活介護を週5回通える事業所がない。親亡き後の生活場所にも不安がある。

委員長：自立支援協議会でも同じ話があり、町内と町外の利用者の数値を出してそれを分析していくことで、町内の事業所の必要数を把握できるのではないかと。

事務局：社会資源については足りないと感じており、どうすれば事業所が増えていくか、会議で検討していきたいと思います。

委員長：施設利用を希望している人や事業所の現状を分析する必要があるのでは。

委員：施設を作るとしても働き手がない。障がい者施設で働くことに抵抗がある人もいる。興味をもってもらえるよう町でも検討し、企画してほしい。

委員長：他の自治体での事例等も参考に、今回の計画に盛り込んでいきたい。

委員：障がい者と高齢者の方が利用できる小規模多機能型の施設が全国的にあるが、町内ではそのような施設を作る予定はないか。

委員長：様々な事業所はあるが、なかなかうまくいかないようだ。

委員：本郷の「美里ベース」は小規模多機能型だが、ここは高齢者の施設だった。

委員長：「小規模多機能型」にも種類が様々あるため、年齢や障がいの種別を超えて利用できる施設があると良いと思う。

委員：共生型は高齢者と障がい者で法律が異なり、事業者には手が出しにくい。

委員長：送迎や災害の時でも連携して効率的な対応方法を導きだせると良い。

社会福祉協議会ではいかがですか。

委員：社会福祉協議会では、ボランティアのマッチングを検討しており、これからニーズ等を把握しながら検討していく予定。

委員長：医療機関ではいかがですか。

委員：知識がないから介護ができないという話を聞く。介護では高齢者あんしんセンターが主となり、学校等で広報している。今後、基幹相談支援センターを作るのであれば、そこが中心となり情報発信をしていくことで、将来、障がい福祉の職に就く人も増えていくのではないかと。

委員長：そのようにしていただきたいと思います。

委員長：「(4) アンケート調査」について

事務局：資料6により説明

委員長：障がい者の方と事業所は別の調査票なのか。

事務局：お配りしたアンケートは障がい者を対象とした調査票です。事業所向けは検討中です。

委員長：今回は抽出調査なのか。障がいのある方全員にアンケートを配布するのか。

事務局：65歳以上については介護保険計画のアンケートで調査しているため、今回のアンケートは町で把握している65歳未満の障がい者の方全員に配布の予定です。

委員：手帳を取得していない子どもには、配布しないのか。

事務局：手帳を取得していなくてもサービスを利用している方には配布予定です。

委員：支援学級の方は含まれているのか。

事務局：支援学級に通う子どもの情報は、持ち合わせていないため含まれていません。

委員：グレーゾーンの方の意見が言える場があると良いが。

事務局：グレーゾーンの方は障がい福祉のアンケートが届いたときに、保護者の気持ちが難しいところがあり、今回のアンケート配布先には含めていません。

副委員長：診断は受けていても障がい者手帳を申請していない人もいる一方で、障がい者として認知してほしい方もおり、温度差がある。

事務局：支援学校に事業者のアンケートを配るのも1つの方法かと思います。過去にアンケートを送ると、家族に障がい者だと知られたくないという方もおられました。ただし、直接意見を聞けない方は事業所アンケート等から意見を集めたいと考えています。

委員長：アンケートで拾えない意見についても、吸い上げてほしいと思う。

委員長：「(5) その他」について
質問はございませんか。

(質問なし)

5 その他 — 省略 —

6 閉会 (事務局)

以上、開催記録として報告します。